

演題番号:17

テーマ 7:その他

社会経済的指標と手洗い場における石鹸の有無:ラオス社会指標調査 II データの解析

村松(野口) 祐子^{1,2}、野中 大輔²

¹ 明治安田厚生事業団

² 琉球大学大学院保健学研究科

【背景】 石鹸を用いた手洗いは、感染症の予防に効果があるものの、世界の多くの世帯で、手洗い時に石鹸は用いられていない。ラオス国では、ほぼ全世帯において手洗い場に水は利用できる状況にあるものの、34.7%の世帯において石鹸は利用されていない。アジアやアフリカで行われた研究によると、世帯の裕福指標や世帯主の学歴などの社会経済的指標が手洗い場における石鹸の有無と関連していることが報告されている。しかしながら、これらの研究は社会経済的指標以外の要因を考慮していないので、社会経済的指標と手洗い場における石鹸の有無が本当に関連しているかどうか不明である。そこで本研究は、社会経済的指標と石鹸の有無の関連について潜在的交絡要因を調整しながら評価した。

【方法】 2017年に全国規模で実施されたラオス社会指標調査 II のデータを使用した。手洗い場に水が利用でき且つデータに欠損値がない 18,842 世帯を対象とした。アウトカム変数は、調査員が観察により確認した手洗い場における石鹸の有無、主な予測変数は、世帯の裕福指標(4 分位)と世帯主の学歴(3 段階)とした。世帯の裕福指標は、世帯財産データを用いた主成分分析から演者が作成した。他の予測変数は、民族、5歳未満児の有無、家畜の有無、居住地域とした。混合効果モデルによる多重ロジスティック回帰分析を行い、データの階層化構造や他の予測変数の影響を考慮しながら、アウトカム変数と各予測変数の関連を解析した。

【結果】 38.5% (n=7,251)の世帯において、手洗い場に石鹸が無かった。ロジスティック回帰分析の結果、世帯裕福度が最も低いグループと残りの 3 グループとの間で、手洗い場に石鹸があるオッズが有意に異なった(最も低いグループ vs. 最も高いグループの調整オッズ比:6.24, 95%信頼区間:5.33-7.32)。世帯主の学歴についても同様に、最も低いグループと残りの 2 グループとの間で、手洗い場に石鹸があるオッズが有意に異なった(最も低いグループ vs. 最も高いグループの調整オッズ比:1.59, 95%信頼区間:1.41-1.79)。

【結論】 本研究は、ラオス国において、世帯の裕福度と世帯主の学歴などの社会経済的指標は、手洗い場における石鹸の有無と独立して有意に関連していることを明らかにした。石鹸の価格や石鹸の重要性に関する知識不足などが石鹸使用の阻害要因となっている可能性がある。